



令和8年6月 川内市医師会在宅医療支援センター発行
 住所…薩摩川内市大小路町70番26号
 TEL…0996-22-4021
 FAX…0996-22-8114
 H P…https://iisennet.jp

QRコードより
 いいせんネット
 ホームページに
 アクセスできます



平成31年2月にいいせん便り発行を開始しました。各協議会の皆様にご協力いただき、このたび第23号を発行することができました。バックナンバー(過去発行分)を「いいせんネットホームページ」で見ることができますので、よろしければご覧ください。

川内市医師会は、薩摩川内市と受託契約を結び在宅医療・介護連携推進事業に取り組んでいます。在宅で医療や介護が必要になっても在宅医療を受けながら最期まで自分らしい生活をする「在宅医療」という選択肢を知っていただくために、在宅医療支援センターの活動や医療・介護職の取り組み・在宅で役に立つ豆知識などの情報を発信しています。

令和7年度 第4回 いいせんネット研修会 【R8.3.4開催】

テーマ 「救急要請現場から考える意志決定と連携～専門職が知っておきたい現場の実際～」

講師 薩摩川内市消防局 警防課長代理兼警防救急係長 中谷 真吾 氏

講演 「DNARの救急対応について」



薩摩川内市消防局
 FIRE DEPARTMENT OF SATSUMASENDAI

DNARの救急対応について研修会を開催しました。現在薩摩川内市消防局が所属する北薩MC（メディカルコントロール協議会）では、DNARプロトコルの作成が検討されているそうです。

今回の研修では、医療・介護現場との認識の違いや体制の未整備などの課題について活発な議論がなされました。

参加後のアンケートでは

「救急隊の生の声が聞くことができ良かった」「改めてDNARの共通した認識がなければ実際その時に関わる全ての方が悩み戸惑うことになるかと再認識できました」などの意見が聞かれました。消防局からは、今回の意見を今後のプロトコル作成に活かしていきたいとの感想がありました。（参加者：会場48名、オンライン55名）

※DNAR(Do Not Attempt Resuscitation):心停止時に心肺蘇生を試みないことを患者本人または代理者の意思に基づき事前に決めておく医療指示
 ※プロトコル:救急活動時等において、救急隊が遵守すべき事項及び手順について定めたもの



＜消防局の署長・隊員も参加して、充実したグループワークを展開＞



第5回 ミニ勉強会 【R8.3.12開催】

「もしバナゲームを通して考える人生観～あなたの大切にしたいことは何ですか?～」

テーマ 「もしバナマイスターとともに『もしバナゲーム』しませんか」

講師 川内市医師会在宅医療支援センター 森園 彩

アドバイザー 済生会川内病院 緩和ケア認定看護師 古川 いづみ 氏

「もしものとき」の話題は、なかなか切り出しにくいもの。そんなとき、気軽に話し合うきっかけとなるのが「もしバナゲーム」です。カードに書かれた言葉をもとに、自分が大切にしたいものについて語り合うことで、自分の価値観や他の人の考えを知ることができ、自然とACPの考え方に触れることができます。



＜余命半年とわかったとき、あなたは何を大切にしたいですか?＞

参加後のアンケートでは

「同じような考えでも優先する内容が少し違う」「自分のことを真剣に考える機会になった」「ゲームだから…という気楽な設定だけだと深いところまで考えさせられて良かった」などの感想がありました。（参加者：会場のみ7名）



在宅医療支援センターでは、介護施設や医療機関の職員の方々を対象とした出張講座も承っております。在宅医療や歯科・口腔に関する研修会、人生会議（ACP）をテーマにした講座など、現場のニーズに合わせて企画いたします。職員研修や地域連携の一環としてご利用ください。（費用はかかりません）

在宅医療支援センター
 Instagram



KA_SENDAI_ZAITAKU

川内市市民病院健康まつり ～第11回市民公開講座～

在宅医療相談ブース【R8.4.18開催】



＜今回もSSプラザせんだいで開催＞

在宅医療に関する相談コーナーを設置し、療養生活や医療体制に関する疑問・不安について、専門職が個別に対応しました。

出前講座・サロン連絡会



＜マイライフノートについても説明＞

地域でイベント開催の際、相談ブースやミニ講座など承ります。お気軽にご相談ください♪

ラジオ番組出演【R8.4.16放送】



＜毎年1回の出演＞

FMさつませんだい「あおまる暮らしの情報」に出演。在宅医療支援センターの業務や在宅医療とはどんなことか、人生会議のこと、お口にまつわることなどお話ししました。

健やか支援アドバイザー研修会

【R8.5.18～R8.5.27】



市内10会場で健やか支援アドバイザーさん向けに「在宅医療支援センターの紹介」「在宅医療とは」「人生会議」「お口のはなし」について、お話をさせていただきました。

【JRATってご存知ですか?】

川内市医師会立市民病院 総合リハビリテーション部 部長（理学療法士） 長嶺 英博

「JRAT」という言葉をご存知の方は少ないと思います。これは「Japan disaster Rehabilitation Assistance Team = 日本災害リハビリテーション支援協会」のことで

「災害でリハビリテーション（以下、リハ）って、どういうこと!？」と不思議に思われる方がいらっしゃるかもしれませんが、もちろんこれは災害で怪我をした方にリハを行うことではありません。簡単に言うと、災害関連死の防止と住居を含めた生活環境整備の支援等をリハ専門職の視点で行うことです。JRATは、東日本大震災直後の2011年4月にリハ支援10団体が集まり支援を開始、2013年7月に「大規模災害リハ支援関連団体協議会」として正式にJRATが設立されました。2020年には「一般社団法人 日本災害リハ支援協会」と名称変更がされ、現在に至っています。現在、JRATの構成団体は、リハ関連の13団体となります。



避難者の歩行の評価
 （反対足で踵を踏みそう）



安全性を高めるために
 スリッパを加工



熊本地震でのJRATメンバー
 （熊本・福岡・鹿児島）

これまで、東日本大震災以外に、熊本地震・豪雨や口永良部島噴火、熱海市伊豆山土石流などの大規模災害、2024年の能登半島地震・豪雨など、ほぼ毎年のように全国各地で活動を行っています。活動内容としては、①生活不活発病とそれに伴う災害関連疾患の予防と対策（避難所等でのADLや体操指導）②生活環境の改善や工夫（避難所・仮設住宅の段差・歩行スペース、ベッド等の評価・環境調整）③その他、自助具や補装具等の支援等、多岐に渡ります。ただしこれらの活動はJRAT単独ではなく、災害対策本部の指示のもと、関係団体が丸となって支援活動を効率的・効果的に展開できるように実施していきます。今後、皆さんが災害支援に参加される際に、JRATの活動内容をご理解いただいた上で、共に活動することができましたら有難いです。

◆バイタルリンクを活用していますか?

患者様の情報共有、入退院支援、施設入所等の情報共有など、さまざまな活用方法があります。

例：◎転院先や入所先へ患者さんのリアルを情報提供！

（リハビリや歩行状態・食形態などの様子も画像・動画で共有可能）

◎患者様の日々の様子を情報共有（複数の事業所が連携している場合、1回の投稿だけで情報共有ができます!）

操作方法や具体的な使い方など、ご説明（提案）に伺いますので、お気軽にお問い合わせください♪

